

アンゲリア



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

授業訪問シリーズ No.8

生き物よもやま話

授業担当教員：福士 秀人、山口 剛士、山添 和明

この授業では、毎年多くの学生(2004年・351人、2005年・297人2006年・272人)が受講しており、今年度後学期から開始されたWeb履修申請人数も268人(定員を超えたため、レポートで選考したので最終受講人数は145人)でした。

3人の講師がそれぞれのテーマにそって話をされており、1回ずつ完結した講義になっていますので、今回は毎年受講希望者が多い理由を探るため、福士教授の授業を訪問しました。

シラバスの「受講者へのメッセージ」では「生き物の不思議さをいっしょに楽しむと同時に、生きていることと「死」についても考える時間になりたいと思っています。いっしょに勉強しましょう。」とありましたので、どのように講義を進められるのか拝見していると、「のにつきー野日記ー」という動物の死を描いた「絵本」や「死(Death in Nature)」という「写真集」をプロジェクターで見せて授業に引き込んでいき、生き物の「死」とは他の生き物の「生」にとっても必要なものであることを、生物学の視点から説明されました。「一匹の動物の死」から見ていくと生物の死骸などは、ほかの動物に食べられたり細菌・菌類などの働きによって分解されてゆき、やがて無機物と水と二酸化炭素にまで分解され、自然の中を循環していく過程となることなどを大変分かりやすく講義されていました。

さらに、「命の大切さ」と「死」をリアルに見つめる本の紹介として、村井淳志著の「いのち」を食べる私たちー二ワトリを殺して食べる授業「死」からの隔離を解くーを紹介されるなど、多くの学生達が集中力を切らさないように講義を進める福士先生の授業でした。(全学共通教育事務局・正村隆弘)



この授業について福士教授にインタビューしました。

「毎年、多くの学生に受講してもらい光栄に思います。今年は受講者制限があったために、半数程度の学生さんにしか聞いてもらえなかったのはとても残念です。生き物の素晴らしさや生物学の楽しさを様々な視点から説明するようにしています。3人の講師それぞれがちがった立場から話をするので、より学生たち楽しんで聞いてもらっていると思います。部分的に難しかったとの声もレポートで見ますが、それでも勉強になってよかったと書かれているのを読むと、やってよかったと思います。毎回、全員のレポートを読むのは時間がかかりますが、私にとっては学生たちの反響を知るための大事な時間です。良かった所、良くなかった所、さらに改善して欲しい所など素直な声を授業に活かすようにしています。来年度も講師一同、張り切って講義をする予定ですので、楽しみにしてください。」



英語相談室のこの一年を振り返って

英語学習相談 担当教員

長尾 裕子

昨年4月に英語相談室が開設されてから1年が過ぎようとしています。

私なりにこの1年を振り返ってみたいと思います。

1番多かった相談は、TOEICやTOEFLを受けるにあたっての勉強方法でした。

TOEICは就職試験や大学院受験に必要なことも多く、思った以上に興味を持っている学生さんがいるのには驚くとともに嬉しくもありました。

勉強方法はそれぞれ異なると思いますが、特にリスニングの勉強をどうすればいいのか悩んでいる人がたくさんいました。

2番目に多かったのは、留学相談でした。

これは夏休み前に特に多かった相談で、休暇中の短期留学に行った方がいいのか、海外に行って英語を勉強したいがどこに行ったらいいのか、留学前の準備をどうしたらいいかなど、様々な質問が寄せられました。

そんな相談には学校にあるパンフレットやインターネットで調べたりしながら、個々の学生さんに対応しました。

後学期になると、留学結果を報告しに来てくれる学生さんもおり、一人で何かをやりとげた達成感を私も共有することができました。

その他色々な相談がありましたが、一つ残念だったのは、英語学習相談の内容にも記してあるように、英語が苦手で困っていたり、成績のことで悩んでいた学生さんがほとんど来てくれなかったことです。

1年の時は全員、2年次以降でも英語が必要な人はたくさんいます。

授業についていけず悩みを抱えている人も多いと思います。

この相談室はそんな学生さんのためにもあるのだということを忘れないでください。

私達はいつでもお役にたてるよう待っています。

Knock on the door! We are more than happy to help you!



まずは相談室へ☆

教育学部2年

日比 美由紀

私は大学2年生になって学習相談員という役割を与えられた。しかし相談員になって1年、私が相談員として働いたことはない。結局、相談員の時間は自分の課題をしたり、友達を呼んで話したり授業のプレゼンなどを作る場となってしまう。

私が相談員の話聞いたとき、とても画期的だと思った。大学のことでわからないことを大学の先輩に、教授とかそういう人たちの目線ではなく学生という同じ目線から教えてもらえるからだ。実際に私が大学1年生の時、授業をどうやって履修すればいいのか、たくさんある授業の中からどの授業を選べいいのか、ってかそもそも単位ってなんなのか、自分にはどれくらいの単位が必要なのか、シラバスや4年間の計画がかいてある変な表はどうやって見たいのか、というように疑問が尽きることはなかった。なんとか私はこうして2年生になれているわけだが、友達に任せているところもあるので、今ちゃんと単位が足りているのなどはまだ疑問だったりする。あのとき相談できる先輩がいたらなと思った。

自分の単位が足りているかもわからない頼りない先輩だけれど、毎週全学共通教育講義棟の1階で少しでもみんなの疑問や不安を取り除けたらなと思い、待っている。どんな些細な疑問でもいいし、授業のことだけでなく将来のことでもいい、それにただ先輩とはなしてみたい! そんなことでもいいと思う。来年は今年の改善点を活かしてさらにグレードアップしていると思うから、ぜひぜひ相談室に足を運んでみてください!!



学生のホットステーション

工学部研究生

服部 中庸

これを読んでいる皆さん、こんにちは。学習支援室とは生徒の疑問や不安を同じ学生の立場で解消しようという考えから生まれた、学生のための相談部屋です。授業の履修、資格の取得、英語検定の受験方法など、先生には聞きづらいちょっとしたことでも、気軽に話せる憩いの場として設置されました。相談料は無料です!ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。...と、普通の紹介をしてもおもしろくないので、学習相談室の有効な活用方法を少しだけ、紹介しようと思います。

Q.パソコンの基本的な使い方がわかりません。教えてください。

A.学習相談室にはパソコンもあります。よほど難しいことでなければ説明できるでしょう。ちなみに僕も大学の最初の授業ではシャットダウンがなんのことか、わかりませんでした。周りの子が自然に電源を切っているのを見て戦慄したものです。(笑)

Q.割のいいバイトを教えてください。

A.学習相談員には、アルバイトをやっている子もたくさんいます。きっと、よい相談相手になれることでしょう。

Q.旅に出たいのですが、オスススポットはありますか?

A.大学生の醍醐味ですよ。旅。僕も大好きです。どの相談員でも、なにかしらの体験談を聞かせてあげられると思います。

などなど。下に行くほど「学習」と関係のない質問になっていますが、ようは気軽にドアを叩いてみてほしいのです。それをきっかけにしてほしいのです。知らない先輩のいる個室に質問に行くというのは、なかなか勇気があることです。最初は雑談で構いません。雑談で終わっても構いません。

学習相談員服部は、皆さんの質問にお答えするために今日もストロブの前で漫画を読みながら、あなたを待っています。

教養教育推進センターからのお知らせ

今年度、センターから平成19年度全学共通教育開講科目「参考文献・書籍・DVD等紹介集」と「レポートの書き方」の冊子を発刊いたしました。

「参考文献・書籍・DVD等紹介集」の方は完全なものからはかなり早く、完全を目指すには学生諸君からの働きかけや「アイデア、アドバイス」が欠かせません。ぜひいろいろな意見や提案等を寄せてもらいたいと願っております。

「レポートの書き方」はかなり万全を尽くしたつもりで、全くの初心者から中級、上級レベルを上げ、一年生だけではなく卒論クラスまで適用できるようにしてあります。全ての学生諸君がこれを持って、その上で「各専門に応じた書き方」を指導員から指導してもらおうことを願っております。

また、上記冊子が学生諸君に実質どの程度役に立ち、活用されたのかも知りたいと思いますので、全学共通教育事務局前の意見箱へご意見、提案等を投書してください。

教養教育推進センター、副センター長 小澤克彦



英語で人生の楽しさが倍増!

英語学習相談 担当教員

杉山 容子

英語に興味はあるけれど思うように読めない、書けない、聞けない、話せない。どうしてなのか。どうすれば良いのだろうかと思っている人はいっぱいいるでしょう。こんなに長く「勉強」してきたのに、「なぜ?」ということですね。

さあ、そこでこの英語学習相談室がお役に立ちます。あなたのその「勉強方法」にどこか問題がなかったでしょうか。一緒に考えてみましょう。そしてもう一度、本気で英語に取り組んでみませんか。これからでも決して遅すぎるということはないのですから。

英語は実用としての重要性は言うまでもないことですが、他にも、たとえば英語を使うということは自ずと日本語にない思考回路を発達させること、英語に張り付いた日本とは異なる文化を知ることになるのですから、それによって大いに私たちの視野が開け思考が深まります。様々な意味で世界が広がり、つまりは人生が二倍楽しめるというわけです。

どんなことでも判らないまま放っておかないことです。消化不良のままにしておく代わりに、一度相談室を覗いてみて下さい。どんな質問でも大歓迎です。そして、どのような学習上達方法でもこれと決めたら、とにかく継続してやってみようということが重要でしょう。やってみて初めて判ってくることや楽しさがいっぱいあります。少しでもお手伝いできたらと願っています。



編集後記

今年度の『アンゲリア』編集方針は「授業紹介」と「学生諸君に向けた情報」というものを柱としました。形態も「壁新聞」の形にして簡単に目を通せるものにしました。

こうした働き掛けのおかげが、学生諸君からの投書も増え、それは全学共通教育開講の授業ばかりでなく全学的に反映されていったものもあります。来年度もこの方針を進め、学生諸君の参加を増やしていきたいと思っています。さまざまなアイデア、アドバイス等を全学共通教育事務局まで寄せていただけると幸いです。

編集責任・教養教育推進センター、副センター長 小澤克彦